

# 令和5年度第1回 大津市スポーツ推進審議会 議事録

令和5年8月23日（水）14：00～15：40  
スポーツステーションおおつ4階会議室

## 出席者

石井 智	びわこ成蹊スポーツ大学
村上 晴香	立命館大学
徳岡 明治	大津市自治連合会
田中 俊彦	大津市スポーツ少年団
中山 敦生	大津市スポーツ協会
廣納 孝志	東レ株式会社滋賀事業場
道明 翔	公募
室谷 浩二	公募

## 1. 開 会

- ・事務局より、配布資料の確認

## 2. 部長挨拶

- ・田中部長より挨拶

## 3. 委員紹介

- ・事務局より、委員及び事務局員紹介
- ・過半数の委員の出席（委員12名中8名出席）により、本会議成立についての報告

## 4. 会長挨拶

- ・石井会長よりご挨拶

## 5. 議 事

- ・報告事項：大津市スポーツ推進計画の概要について

事務局より、資料1「大津市スポーツ推進計画 概要版」について説明

### 質疑なし

- ・審議事項：大津市スポーツ推進計画(改定版)実施計画(アクションプラン)の進捗について
- 事務局より、資料2, 資料3の見方について説明。以降、内容について方針ごとに説明

### ■基本方針1について

#### 質疑応答

会 長：はい、それではただいまの基本方針1につきまして説明いただきましたけれども、ご質問ご意見いかがでしょうか。

委 員：指標が、18歳以上の市民ということになっていますが、どのように実績をパーセンテージ化、数値化されているのかをお聞きしたい。

事 務 局：事務局よりお答えさせていただきます。このパーセンテージ化、数値化につきましては、スポーツ課の方で行っております、市民意識調査の集計に基づく結果を反映させていただいております。

会 長：いかがでしょうか。それで大丈夫ですか。はい。ありがとうございます。他、よろしい

でしょうか。それでは基本方針2についてご説明をお願いします。

#### ■基本方針2について

##### 質疑応答

- 会 長：ただいまの事務局の説明に対しまして、ご質問、或いはご提案、ご意見、いかがでしょうか。
- 委 員：ご説明いただきありがとうございます。このスポーツデータ活用プロジェクトについてGPS測定器を用いたスポーツデータの活用とのことですが、具体的なことは、どのようなことをされているのかを、お聞かせいただければと思います。
- 事務局：事務局より回答させていただきます。スポーツデータリテラシーの事業につきましては、小学校高学年の児童にGPSの測定器をつけてもらい、50m走や、鬼ごっこを行い、それぞれの児童の動きをデータとして測定するということをしております。そのデータを活用して、その個人の限界値や走り方、例えばスタートダッシュが早いであるとか、どの辺りから距離が伸びるのか、といったその個人の特性を明らかにして伸ばしていくというのが可能となっていくといった内容になっております。以上になります。
- 事務局：はい、少し補足させていただくのですが、先ほど申し上げました測定を行うことに加えまして、先生の方に体の動かし方、早く走るにはどういう体を動かした方がいいのか、という指導をオンライン形式で実施します。オンラインと、測定を1セットとしまして、それを2セット、少し期間を空けて行います。最初に測ったときよりも、教え方によって走り方が早くなることに加え、どうやったら早く走れるのかという気持ちにも繋がることといった、運動に対する意識の向上も目的として行っている事業になります。以上です。
- 委 員：すいません、もう1点だけ。指導者の確保の課題ですが、今考えられているこの「新しい価値を創造する視点」というのは、どのような視点なのか、ご教示いただいてもよろしいでしょうか。
- 事務局：事務局より回答させていただきます。「新しい価値を創造する」という視点については、まだ具体的なことはまだないのですが、様々なスポーツのやり方であるとか、実施の仕方という事を検討する必要が出てきたところです。今後は、それらを踏まえた上でどのように新しいやり方を見つけていくかを検討する、という内容になっております。
- 事務局：はい。すいませんこちらも少し補足です。こちらは天津市の教育委員会の方で、天津市の中学校部活動地域移行検討懇話会というのを組織されておりまして、こちらに関してはスポーツ課の方も参画しております。また、有識者の方にも参加いただいている懇話会であり、その中で検討いただいている内容については、先ほど申し上げたようにまだ具体的なところは無いのですが、やはりコロナをきっかけとして、新たな価値を創造していく視点も必要であるという話から、これも含めた検討を進めていただいているということです。
- 委 員：いいですか。同じ部分の質問になるのですが、令和5年度以降の取り組みとしてスポーツデータ活用プロジェクトというのがありますが、GPS測定器を使って実施することなのですが、この中身を見ると、小学校高学年を対象に体育事業にて実施している、とありますよね。でも、この2番目の基本方針である次世代を担う子供たちの運動スポーツの推進の指標は、「学校以外での1日当たりの運動時間」を指標にしている。なぜ体育事業の中で実施をするのか、ここがちょっと疑問ですね。
- 事務局：はい。事務局より回答させていただきます。このスポーツデータリテラシーの事業に

つきましては、先ほどの説明があったように2つの側面がありまして、1つは実測でデータを取るということ、2つ目がオンラインでの各児童へ運動の仕方を指導するということがあります。この事業では、各個人への運動の仕方を指導することで、その体育の授業だけではなくて、普段から、要は時間外、学校以外のところでも各個人が指導を受けた運動の仕方を実践できるという内容となっております。そういう意味において、この中に組み込ませていただいている次第であります。

事務局：そうですね。ここの基本方針では、「学校以外での1日当たりの運動時間」を指標としていますが、そもそもの施策目標が、子供がスポーツを楽しみ、たくましく成長できるところで、学校での運動によって、運動することの楽しさを知っていただく、それが「学校以外での1日当たりの運動時間」という学校以外でのそれぞれの活動にも繋がる、というところを踏まえてこのような形にさせていただいているところ です。

会長：他、いかがでしょうか。どうぞ。

委員：5年度以降の取り組みの中で、「個々に合わせたトレーニングで運動やスポーツが好きな子供を増やしていく」というのがあるのですが、現実にも地元や少年団、体育団体の子供の少子化もあります、どんどん子供が減っているわけです。そして、その子供が本当に運動やスポーツが好きなのか、という疑問もあります。もう嫌いな子供が増えているのではないかと、思ったりもしています。この取り組みについて、具体的な取り組みについてはおかしいかもわかりませんが、何か具体的な例があるのでしたら教えていただきたいと思えます。

事務局：はい。スクリーンタイムの増加等を「学校以外での1日当たりの運動時間」の減少要因として記載させていただいているのですが、こういったデジタルを活用、使用することは今後避けられない事象であると考えています。ただ、それにより運動機会が喪失されている可能性の一方で、例えば先ほど説明させていただいたデータリテラシーであるとか、また別の施策の基本方針でも説明させていただくeスポーツフェスティバルもそうなのですが、デジタルを媒介としてリアルなスポーツに繋げていくという事もやり方としてはあるのではないかと、考えております。eスポーツフェスティバルにつきましては、eスポーツというゲームから、実際のリアルスポーツへの繋げ方であるとか、データリテラシーのように手元のデータを自分で見ることでスクリーンを通してですけれども、そこから体の活用に繋げていく形で、発展させていければと考えております。以上です。

会長：今の指摘は非常に的を射ていると思えます。要は、スポーツが嫌いである、体を動かすのが嫌いという子供というよりも、子供たちが今日なんだか体を動かしたいなと、そういうモチベーションするような方向に今の施策が沿っているのかどうか、それは検証すべきと思えます。要は動き方がいいとか、走るのが早くなるとか、それはモチベーションの高い子供にはあてはまるでしょうけれども、そもそも、あんまり運動することが面倒くさいと思っている子供を、遊びたいな、体を動かしたいなと思えるようにする。そういうところですね。だから、そこにこの施策が要はあてはまっているかどうかは、よく検証しなければならないと思えます。そして、現場ではそういうずれがあるのではないかと、とそういうことですね。ここはちょっと我々含めてしっかりと考えていかなければならないと思えます。はい。いかがですか。

委員：例えばスポーツ少年団の団員の減少というところを深掘りしていくと、例えば、保護者がスポーツ少年団に入れたくないといった考え方が一つ。もう一つは、今気が付いたのであるけれども、本当に子供が体を動かしたりすること、スポーツが好きなのかどうかということも見ていく必要がある。そして、そこを解決するために、今のスポ

ーツ少年団としては、走り回る幼児、幼稚園の子供を対象にアクションチャイルドプログラム、ACPというのをやっています。道具を使わずに体を動かすことの基本的な喜びですよね。体を動かす、そして体を動かす中で頭を使う。スポーツ少年団は、そういったことを、まず小さい頃から遊び感覚でやってもらってスポーツに馴染んでもらうというのを、毎年、どこの会場で何件行うかの目標値を決めて取り組んでいます。

会 長：はい。ありがとうございます。基本方針2につきましては、いろいろとご意見もあると思いますが、とりあえず全部終わってからもう一度議論できたらなと思います。よろしくをお願いします。それでは次の基本方針3についてご説明をお願いします。

#### ■基本方針3について

##### 質疑応答

会 長：ありがとうございます。それでは今の説明に対してご質問、ご意見ご提案ございましたらよろしくをお願いします。

委 員：はい。ご説明いただき、ありがとうございます。今現状ですね、大津市民の体育大会で卓球バドミントン、ソフトボール、バレーボールというように、実施をされているということなのですけれども、私も、もともと野球をやっております、野球も正直なところ、卒業してからはあまりできてない状況なのです。けれども、去年ですかねマスターズ甲子園、一般の甲子園の大会が初めて滋賀県で行われたというところで、確か比叡山高校と八幡商業高校が出場されて、大会をされたのですけれども、そういったところとも何か連携などを取れたりできるのでしょうか。もうちょっとチーム数を増やすといったことや、そこからこの大津市民体育大会の促進じゃないですけども、何か繋ぎ合わせることは可能なのか、という案ベースでの件ですいません。お願いします。

事務局：ありがとうございます。今の件に関しましては、現時点ではおっしゃっていただいた比叡山高校の方や、マスターズの方との連携というところは検討しなかったのですけれども、今後、この大津市民体育大会が実行委員会という形で、大津市、大津市のスポーツ協会、各種の競技団体と一緒にさせていただいておりますので、その中で、先ほどのお話も含めた上で、今後多くの市民の方、普段からスポーツをされている方よりも、普段スポーツをされていない方も参加していただけるような、大会を目指していきたいと思っています。

会 長：はい。ありがとうございます。はい。他、いかがでしょうか。

委 員：この事業成果及び課題のところですね。30歳から39歳の年代においては、令和3年度の33.8%から令和4年度は20.9%と、大きく減少しているという意識調査の結果ですよ。全体としては、令和4年度は47.3%と上昇したと。ちょっとその辺りが、腑に落ちない部分があるのですけれども。

事務局：はい。確かに全体としては上がっているのですけれども、結果的に言いますと、なぜこの世代が下がったのかという点は、単年度の調査だけで見ても、正直なところわからないとなります。子育て世代であるとかコロナが重なったことが要因ではないか、という推測はできるのです。しかし、なぜその世代だけ下がったのかというのに対しては、次の5年度の調査も踏まえた上で、その現象が継続的なものなのか、この年の一時的なものなのかを精査する必要はあると考えております。以上です。

委 員：私が少し納得いかないのは、令和3年度と令和4年度の数字を見ますとね。令和3年度より低いのではないかなど。そう考えていたのですけれども、逆に4年度上がっているっていうのがね。そこの部分がちょっと納得いかないところなのです。令和4年度

の方が、コロナ疲れもあろうかと思えますけれども、きっと用心される度合いは高かったと思うのです。ですから、ちょっと何かこう、数字全般、先ほどもそうですけれど。少し手を加えられているみたいになんか感じるのですけれど。

事務局：今、最後におっしゃっていただいた手を加えるといったことは全くないです。市民意識調査の結果そのままの数値を出しております。ここの指標、「地域の運動・スポーツ大会、教育の参加率」というところで、各学区の方で様々な活動ですね、今おっしゃっていただいた学区運動会は令和3年度0件であり、どこの学区も開催されなかったのですけれども、昨年度は半分の約18学区で開催いただいております。また我々の方で各学区へ補助金を出させていただいている中で、すべての各学区の体育に関する事業は、スポーツの活動報告をいただいております。その中でも、やはり令和2年度、令和3年度というのはコロナ禍が出始めた時で、まん防とかそういうこともあったと思うのですけれども、各学区の活動はほとんどされておらず、令和4年度に少しずつ再開されたという事実があります。よって、これに関しては令和4年度の方が活動されており、活動する機会が増えたことによって、参加率が増えたのではないかなと考えています。

#### ■基本方針4について

##### 質疑応答

会長：はい、ありがとうございます。それではただいまのご説明に対してご質問ご意見ありますでしょうか。

委員：ご説明いただきありがとうございます。ご質問なのですが、このSNS等を使っての市民への周知なのですけれども、どのような内容でお考えでしょうか。

事務局：はい。基本的にはそのイベント情報等を旧Twitterですね、Xや大津市のLINEがあり、そちらの方でも随時発信を行っております。

委員：はい、ありがとうございます。一応、ボランティア自体の実施者の割合としては、「あまり活動したくない」「全く活動したくない」という方が合わせて42%とのことですが、このことで、ボランティア、スポーツボランティアに対してのイメージの改善というのが必要ではないかなと考えております。例えばボランティア参加者のお声であったりとか、或いは他の地域ではありますが、地震の際、有事の際にボランティアで参加していたことで、連結、連携が取れて、それこそ助け合うことができたみたいな事例であったりとか、そういった情報も流していくと、「あまり活動したくない」という方も、もしかしたら考えが変わるのではないかなと思うのですけれども、その辺りいかがでしょうか。

事務局：はい。ご意見いただいた通りですね。当市としましても、大きなイベント等にかこつけるといってはなんですけれども。それを契機として、いかに巻き込んでいくかというところが大きな要因と思っております。あと、ご意見いただいたような形も踏まえまして、また検討を進めていきたいと考えています。以上になります。

会長：今の指摘はすごく大事な部分でしたね。なるほどと思いましたが、やっぱりイメージですね、イメージ悪いと。それをどう変えていくのかっていうのは、非常に良い視点だと思います。やっぱりそういったボランティアが、ある意味災害時のネットワーク作りになるということは、他の地域でも、私もいろいろな研究の中で聞いたことがあります。実際にそういうボランティアネットワークが、実際災害が起こった時の安否確認に繋がったとか、特に逃げ遅れている高齢者の安否確認に繋がった、ということもあります。そこは、ただスポーツだけではなくて、他の災害対策を他の部署とも連携を取りながらやっていただければありがたいな、と思います。はい。他いかがでし

ようか。

副会長：今のお話、すごく私自身もためになりました。やっぱりいろんな形でのボランティアがあると思うのですけれども、スポーツだけではない他のボランティアとの連携というのを取り入れながら進めていくというのは本当重要だと思いました。やっぱりスポーツボランティアのイメージということをおっしゃいましたが、私もスポーツボランティアと言われると、どうしてもスポーツの競技のルールを知らなきゃいけないとか、やったことがないといけないみたいなイメージがついて、どうしてもハードルが高くなってしまふ面があると思うのです。けれども、そうではない一つのコミュニティですよ、集まってみんながやっているぐらいですよ、みたいな発信もしていくことで、何か少しハードルを下げてボランティア活動に興味を持ってもらえるというのが重要なかなと思いつつ聞いていました。以上です。

会長：国スポ・障スポの会議でもすごく話題になっていて、全然ボランティア盛り上がらないというのが課題としてあるのです。これは、大津市だけじゃなくて、滋賀県や、他の市町とも関わっていますけれども、大体そうですよ。そういう意味では、やっぱり非常に良い視点だと思うし、大津市がリーディングシティになっていけば、そのモデルを作っているいろんな市町に広げていくという形がとればいいんじゃないかなと思います。他、いかがでしょうか。

委員：よろしいですか。このスポーツボランティアの件に関して、低い数字が表示されていますけれども、これは数字が低いからどうしても、ボランティアさんを増やしたいという希望があるかと思うのです。けれども、スポーツのボランティア活動をしたという方の意識調査等はされたことはございましたか。といいますのはね。災害ボランティアでしたら、例えば道路のかき揚げ作業であったり、昼や家財の撤去であったりとか、直接その家の方と共に取り組んで、ボランティア活動をさせていただくことによって、感謝を返してもらえることでまたやる気が生まれて、また、もう一度災害ボランティアとして、お手伝いさせていただこうという気持ちが生まれると思うのです。また、ボランティアの種類によって、ボランティア活動する人の気持ちもね、随分と違うと思うのです。ちょうど私どもの学区で、実は今年4月に学区ボランティア協議会っていうのを、任意団体で立ち上げたのですが、その前にボランティアさんの意識調査をしたらもう7割の方が有償ボランティアやったら参加するとかですね。そういう結果であったのです。それはボランティア活動を絞った上で調査したわけではないのですけれども、なかなか無償ボランティアだと、ちょっと集まりにくい部分があったりするのです、せめて例えば交通費とか、そんなものが出なくても、その活動関係のところから、タオルとかがいただけるとかね。そういうものがついて回ると、ちょっと気持ちが違うものになるということをお話の方がいらっしゃった。ですから、ボランティアの概念ももう一度しっかり考え直すほうがいいのではないかなと思うのですよ。ちょうど今、例えば大谷翔平さん効果でね、こう盛り上がったりしているじゃないですか。ホームラン打つ度に、もうテレビや新聞では、盛り上がりますよね。で、ああいった効果をやっぱり上手に活用すれば、また、子供だけでなく幅広い世代の方々にもボランティアを通して、自分も楽しんでもらえる部分が出てくるとか、また違う喜びも感じてもらえる。そんなところもね、上手に活用していかないと。もうなかなかね、私どもの北部の学区に関して言えば、なかなか集まりにくいのです。ですから、ボランティア活動をされている方には、後方支援をさせていただいておりますけれどもね。それでもなかなかやっぱり50歳以下の方にお問い合わせしても、なかなかいい返事が返ってこない。そんな現状なので、もうちょっと、このスポーツボランティアについてはね、しっかりスポーツ課の中でもね、情報共有して考え直してもらった

らどうかと思うのです。

会 長：ありがとうございます。ぜひいろいろ、意見をおっしゃってください。よろしくお願  
いします。はいちょっと話題替えますけれど具体的に市民の方がどういうふうな活動  
されているのか、それはちゃんと周知されているのか、ということも合わせちょっと  
お伺いしたいと思います。

委 員：ちょっと、今のご質問のちょっと答えになるかどうかわからないのですが。今、バレ  
ーボールのVリーグも、この秋から 2023-24 シーズンということになるのですが、そ  
の次の 2024-2025 シーズンからだいぶ形が変わり、所属チームへの条件がいろいろ提  
示されています。その中で、例えばスポンサーについても我々企業として持っている  
わけですが、それ以外に複数の他のスポンサーにも応援いただくとか、チーム名に地  
域名をつける、体育館をも持つというようなことで、来年のシーズンからは大きく変  
わるという中で、スポーツを市民の皆様にご覧いただき、またそこで楽しんでいただ  
いて、ボランティアというか、応援していただけるチームになり、応援していただく  
喜びや、スポーツを通じたボランティア等での楽しみというようなことに繋がるよう  
なチーム活動に繋げていきたいというふうに今、そういった視点での活動に取り組ん  
でいるところです。まだ、中間的な状況ですが、ちょっとご報告とご連絡をさせてい  
ただきたいと思います。

会 長：ついにバレー界もですね、地域スポーツというか、Jリーグ、Bリーグに続いて、非  
常に今、改革を進めておられまして、そういう意味では、より市民、地域に向けたチ  
ーム運営をされるというところで、ぜひ、その動きをしっかりと我々もそれに乗っか  
るといいますか、それをうまく市民も一緒になってやっていくと、より球団としての  
活動も活発になりますし、市民にとってのメリットも大きい。そんな感じですね。

委 員：ぜひ応援していただけるような形に、もう足元から今まで以上に何かあれば選手も足  
を運んだりというような形で、取り組み始めているところですので、またご意見等ご  
ざいましたらまたよろしくお願いいたします。

会 長：多分、今、企業スポーツからそういったプロの部門というか、スポーツビジネスの方  
向に大きく舵を切るところなので、そういう意味では、今スポンサー集めもこれから  
大変になるでしょうし、でもやっぱそういう意味で非常にチャンスというか、一役を  
担っていただくという点ではですね、非常に良い時期かなと思います。ぜひ市の方も  
ですね、その動きを敏感に感じ取っていただいて、いろいろ施策を打って欲しいなど  
思っています。よろしいでしょうか。すいません。では、次の基本方針5についてご  
説明をお願いします。

#### ■基本方針5について

##### 質疑応答

会 長：はい。ありがとうございます。それではただいまの説明に対して、質問ご意見ござい  
ますでしょうか。

委 員：すいません。その中で「施設整備や大会の周知啓発活動などを進める」とあるのです  
けれども。例えば彦根とかでしたらね、メイン会場の球場や、陸上競技場の大改修を  
大々的にやっています。そういった箱物をやることによって、認知度というか盛り上  
がり度が高まっていくと思うのですけれども。大津市の場合には何かそういった、箱物  
と言ったらおかしいのですが周辺施設の整備といった計画はどこかあるんでしょうか。

事 務 局：実は大津市の整備ではないのですが、上田上にダイハツ滋賀アリーナ、新築の新県立  
体育館がもう実はできてまして。ただ、ちょっとなかなか人目につくことなく、森の  
中で作ってましたので、なかなか盛り上がってなかったかもしれません。大津市が今

整備してますのは、大石の大石緑地スポーツ村のテニスコートの工事でございます。テニス会場になるのですが 20 面から 24 面に改装するというので、実際には全部人工芝をめぐって張りかえて、色もちょっと最近多い青色のきれいなさわやかな色にします。それが今年度、工事で 12 月には完成する予定で行っています。あとはですね、ちょっと地味なのですけれど皇子山陸上競技場、これがメイン会場でありましたら、全面改装もしくは大改築をするのですが、そうではないのでトイレの改修を少し、バリアフリー化を含めてやってるところでございます。

委員：はい。整備後のこけら落としまでとは言いませんけれども、そういう何か記念イベントみたいなのはあるのでしょうか。例えば皇子山球場でしたら、去年か一昨年にバックスクリーンの電光掲示板を新しくされたときに、近江高校や、智弁学園を呼んで、こけら落としの試合をされました。そういったイベントをくっつけるのも、認知度を高めていく上では効果的なんじゃないかなと、思うのですけれど。

事務局：ありがとうございます。テニスコートにつきましては、実は川を挟んで、第 1 工区、第 2 工区と分けておりまして、第 1 工区はすでに完成し、供用開始しております。第 2 工区が今年の 12 月にできてですね、来年 1 月からの供用開始をするのですが、1 月、2 月、3 月のどこかでテニス協会様の方が主導で何か記念イベントを他のものと合わせて実施したいという動きがありますので、大会局の方もそれに協力、もしくは入り込んでやっていきたいという計画はあります。

会長：ありがとうございます。新しくできる施設のアクセスはどうですか。滋賀ダイハツアリーナはすごく不便というのは聞いているのですけれど。

事務局：バスがですね、出ています。以上なのですけれど、滋賀医大のちょうどお向かいの施設でもありますし、一応バス停もアリーナ前にありますので、一定、公共交通機関があると。ただ、大きい大会になってくると駐車場が足りないかもしれませんけれども、今のウカルちゃんアリーナと言われている、におの浜の県立体育館に比べるとかなりの駐車台数を収容できますので、マイカーでも一定可能と思っています。

会長：例えば東レアローズの試合をするときに、それだけのキャパがあるのかと。Vリーグもたぶん観客の縛りがあると思うのです。だから何千という人を呼ぶときに、そこやっぱある程度、担保できないと企業の方もなかなか投資することはできないと思います。そこが心配だなという気がします。

事務局：実際おっしゃいますように、国民スポーツ大会の会場であり、バスケ等の試合も行われるのですけれど、その時には一般の観客の方のマイカーでの入場はもう禁止しなければならないぐらいです。役員の方の駐車場であったり、シャトルバスを動かしたりする計画をしていく必要はあり、そうなるとその乗降場の確保も必要というような形になりますので、おそらく一般観客の乗り降りは無理になると思います。となると、東レアローズさんの試合などでも、もしかしたら厳しい場合があるかもしれません。

会長：特に滋賀県は、結構車社会じゃないですか。だから本当に公共交通機関で行く気になるかどうかというところにハードルがあるんじゃないかな、という気がするのです。車で行けないならあきらめる、とならないように何とかいろいろ工夫をしながら、例えば道が長くてもそのロードサイドに、楽しいアクティビティであるとかですね、おいしい店や、歌声が聞こえてくるとか、竹下通りとは言いませんけれど、例えば近隣の大学の先生、学生にいろいろ話を聞きながらやるといったそういった事をやっぱり考えていかないと。要は、施設ができましたけれども、工夫がないと。これは大津市だけじゃありません。どこでもそうです。目標を達成するためにはやっぱり一工夫というか知恵をどう絞るのか。これも自分たちだけじゃなくいろいろな市民の方がいらっしやるわけで、トップチームの人もいれば、すごく偏差値の高い学生もいれば、そ



れこそ審議会の中の方でもいろんな意見を持っておられる方がいらっしゃるわけですから。そういう意味ではこの場だけではなくて、常にそういう人たちにアンテナを張ってですね。意見を聞くような仕組みを作っていけばいいのではないかと、という気は致します。

#### ■実施計画(アクションプラン)全体を通して

##### ご発言等

会 長：それでは全体の前に、総括的に副会長からどうぞ。

副 会 長：はい。皆さん、今日はいろいろなご意見ありがとうございました。今回、基本方針が5つあるわけなのですけれども、それぞれの方針につきまして、忌憚なく、ご意見いただけたのかなというふうに思っております。やはりその目標値に届いてないものだったり、上昇は見られるけれども全国平均と比べて低いものもあつたりとか、いろいろありましたけれども、その中身をしっかりと精査していきながら、一つ一つの事業を良い方向に進めていきたいというふうに考えております。また5つの基本方針も相互に連携をとりながら、せつかく先々に国スポ・障スポがあり、一つの本場に大きな機会だと思しますので、そこと繋げる形でいろいろなものが進んでいければというふうに思います。以上です。

会 長：はい。ありがとうございます。一応審議事項なのでお諮りをしたいと思っております。では、大津市スポーツ推進計画改訂版実施計画アクションプラン、令和4年度事業評価については本日いただいた意見を事務局に協議で取りまとめて、評価、提案の確認については会長、副会長にお任せいただきたいと思います。賛同いただける方は挙手をお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

一 同：(一同挙手)

会 長：ありがとうございます。それではそのように進めさせていただきます。

#### ■その他：大津市のスポーツについて、意見交換

##### ご発言等

会 長：ではこれで審議事項を終わらせていただきますけれども、最後にね。その他として大津市のスポーツ全般に関する意見交換ということを行いたいというふうに思っております。日頃感じておられることなど、今までいただいた意見の続きでも結構です。ご意見をお1人ずついただきたいと思っております。第2回の審議会では本日いただきました意見を参考にテーマを絞った議論の場を設定したいと考えておりますので、そういった点も踏まえて皆様より一言ずつ、ご発言いただければというふうに思います。よろしいでしょうか。

委 員：はい。本日、本当にありがとうございました。いろいろ皆さんのご意見も聞かせていただいた中で、本来令和7年度の到達目標であります国スポ・障スポをいかに市民のみんなに周知してみんなで楽しくやっということかなとは思っておりますけれども、もうあと残すところ2年の中で、びわ湖放送を見ていると、最近コマースシャルで一生懸命流れてますから開催するというのはわかるのですが。例えばその地域のイベント、例えば市民体育大会やスポーツ協会が学区ごとに行っているバレーボール大会、ソフトボール大会といったところへ、もっともっと国スポ・障スポを売り込んでいくというか、その冠をつけるとか、プレ大会であるとか、そういったことをして、子供や僕らの世代にもっともっと意識付けしてくださった方が国スポ・障スポの開催が身近になってくるのかなと感じましたので、報告とお願いをさせてもらいたいと思っておりました。

- 委員：本日はどうもありがとうございます。この資料の中にも大津市のスポーツ協会という名前が何点か出て参りました。たちまち、この9月3日と10日に市民体育大会が始まりますので、私もその現場に駆けつけますけれども、今、おっしゃったことも一理あるなど。昔、バレーをやった、今バトミントンやってる、そういう選手の方が地域で選ばれて出てこられるのですけれども。もうちょっと広く大学や高校でもやってたよ、というその隠れた人材、選手もね、出ていただけるようなアピールもしたいかなど。思っております。はい。今日ありがとうございました。
- 委員：はい。本日はありがとうございました。たくさん質問であったりとか、私の思う考えなどを言わしていただいたのですけれども、改めて私自身もちょっと整理される部分であったりとか、より深く考えさせられる部分がありましたので、このような場を設けていただいてありがとうございます。最後に話合っていたこの大津市の特長を活かしたスポーツの推進ということで、改めてですね、大津市のよさって何なのだろうっていうのを私自身もう1回考え直さないといけないなというのは思いました。そこからもっともっとスポーツ発展させていくためにも、私自身も尽力していきますので、よろしくをお願いします。本日はどうもありがとうございました。
- 委員：私、今日最後にお伝えしたいなと思っている部分は、大津市の中にたくさんですね、年齢を問わず、いろんな競技で活躍されている方っていうのは、間違いなくいるはずだと思っています。実は私自身もトライアスロンをやっています。昨年も日本代表で世界選手権の方に行って参りました。年齢は61歳です。トライアスロンでは、5歳刻みで世界のステージが用意されてですね、その中で、5歳刻みで、世界で戦える。そういう条件の中で自分を生かすことができる。そういった場をトライアスロンという競技は、与えてくれてます。私以外の大津市の方で、もう本当に高齢の方でもですね、陸上選手なり、いろんな競技で活躍されてる方って本当にいると思うのですよ。そういった人たちの掘り起こしをしていただいて、そういう立場を盛り上げてあげて欲しいなって私は思うのです。そうすることによって、年齢の壁を超えた方が一生懸命頑張ってる姿を同年代の方、或いは、若い人たち、或いは子供たちに勇気を与えることができると思うのですよね。そういった市の発掘を、ぜひ行っていただければというふうに思います。今日はありがとうございました。
- 委員：今日はありがとうございました。まず会議の中で申し上げましたが今まで以上に、特にスポーツに関しましては、バレーボール中心に、いろいろなことを私どもの方から発信し、また皆様に応援していただき、共にやっていけるようなことに結びつけていけるよう進めていきたいと思っておりますので、今後ともまた応援ご指導よろしくをお願いします。それから、昨日、私ども事業場で分隊活動というのがございます。いろんなスポーツですとか、スポーツ以外もやるのですけれども、ようやく再開いたしました昨日はグランドゴルフがありました。私も応援に行ったのですが、やはり、わっと思うぐらい人が集まって想像以上に盛り上がり、すごくいい雰囲気が出てると改めて感じました。なので、計画の目標を達成していくために、工夫いただいて、いろんな方が集まって、コミュニケーションとって、スポーツも好きになって、というような仕掛けをどんどんこれからも引き続き進められていただくことを期待したいと思います。よろしくお願いたします。
- 委員：はい。ありがとうございました。1点だけちょっと最後に要望をさせていただきます。大きなイベント等には、費用もかかることですし、費用対効果とも関連するのですけれども、イベントが終わって終いではなく、そのシャワー効果が生まれるようにですね、計画を立てていただければ、その余韻でまたスポーツを好む方が増えてくることも多いと思っておりますので、やっぱり波及効果のあるような、かけた費用が長続きするよ

うな効果を見込んで計画を立てていただけたらいいなど、そんなふうに思います。地域でもね、今までと違う、例えば課題の解決に向けた取り組みをする場合も、それもこの地域内だけやなしに、他の地域にもいい影響が与えられるような、例えば経済面でも、影響が生まれてくるような、そんなことを考えながら進めたりしておりますので、ビッグイベントやったらね、スポーツに関しては、やっぱり大きな波及効果もあろうかと思っておりますので、できるだけシャワー効果を大事に計画に組み入れていただけたらなど。そう思いますのでよろしくをお願いします。

副会長：今日は皆さんありがとうございました。事務局の皆様も本当にありがとうございました。今日いただいたご意見をまとめていただいて、今後のスポーツ推進の糧にさせていただければと思います。私自身も小さなことから始めていきたいなと思います。以上です。

会長：ありがとうございました。本当にたくさん、忌憚のない、いろんな意見を言っていただいたと思います。本当にボランティアの話、或いはそれこそ高齢者と言ったら怒られますけど、含めてやっぱり30代、40代の働き盛り世代。子育て世代っていうのは一番運動しにくいというか、私も経験ありますけれど、生活習慣病がどんどん広がってですね。スポーツをやろうと思ったときにはちょっと非常に手遅れみたいなね、そういう社会をなくすためには健康寿命をね、延伸させる意味でもしっかりと色々な活躍する人達にスポットを当ててそういう人たちをモデルにして、いろいろな生活やスポーツライフのモデルとかガイドみたいなもの作っていきながら、それを色々な施策に盛り込んでいくという。本当に大津市というのは、自然環境が素晴らしいですし、経済も非常に発展する要素もあり、また、市内にプロのチームもあるという、これほど揃っているところは珍しいと思います。是非ですね、まずは我々がしっかりと色々な資源を認識し、それをしっかりと子供たちのために、或いは健康寿命を延伸するために、国スポ・障スポを契機に今、魅力ある、子供が育つ、周りの年配の方もずっと元気でいてくれるそういうまちづくりをね、ぜひスポーツ課、或いはスポーツ関係を中心に、色々な部署と連携をして、この施策を魅力あるものにしていければと思います。

次回の議題については、本日皆様にいただきました意見をもとに事務局と我々が相談の上で、決めさせていただきたいと思います。委員の皆様には、引き続き協力をお願いしたいと考えております。これで本日予定の議事を終わらせていただきます。長時間にわたりどうもありがとうございました。

## 6. 閉会

- ・事務局より事務連絡